
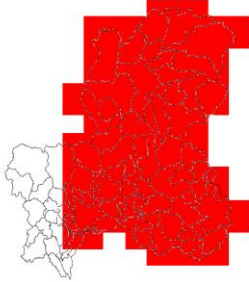


オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i> (Thunb.) Bercht. et C.Presl	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	高さ30cm前後になる多年草。根生葉は束生し、長い柄があり、2回羽状複葉。茎葉は無柄。花期は4-5月。花は暗赤紫色の鐘形で花茎の先端に下向きに1つ着く。花の外側は白い毛が多い。	
生態的特徴	山野の日当りのよい草地に生える。	
分布状況	本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では県南の中部と東部、県北の一地域に生育する。	 <p>※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。</p>
減少要因	過度の採取及び生育環境となる草地の減少。本種は山野草として非常に人気が高く採取により急激に減少してしまった。本種の生育地は茅場などとして定期的な草刈りにより維持されてきた二次草地である。しかし、こうした草地は生活様式の変化に伴い利用価値が無くなって改変されたり、放置されて森林化して急激に減少している。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、本種の生育環境となる二次草地は、そのまま手をつけずに保全するよりも、むしろ草刈りなど積極的な環境管理が必要である。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本 II」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良